

2025楽しい遠足 二川本陣資料館 2025.4月6日

2025年4月6日(雨予報でしたがなんと晴れた日曜日) 昨年の豊橋美術博物館に続き、今年の遠足も豊橋の文化を堪能する企画になりました。二川宿本陣で元教員(社会科の先生)の森田さんに解説をお願いして資料館など館内を案内していただきました。軽妙なお話の展開に参加者からもたくさん質問が出ましたが、その答えにもまたみんななるほどと二百年前の世界に思いを馳せていました。その後希望者は向かいにある商家駒屋さんの蔵を改装して作られたかふえこまやさんで昼食をとりました。昨



年の豊橋美術博物館に続き専門家の方の解説をお聞きしながらの見学は参加者の皆さんにも好評で充実した時間になりました。(文責:宮副幸子)



何回か訪れていましたが、解説付きでは初めてだったのでとても楽しく見学できました。いつもはスルーして見落としがちなどころも丁寧に解説して頂いたり、当時の暮らしぶりなどもまるで情景が浮かぶような解説でわかりやすかったので今後もこういう機会がありましたら解説付きでまわってみようと思いました。参加させて頂きありがとうございました。優子さん

初めて来ました。森田先生の解説を伺いながらの見学はあっという間の時間でした。街道の作りや、大名の宿も位の高い方と低い方では違うということ、宿の部屋の作りを知ることができ楽しく学ぶことができました。 なみさん



初の二川本陣資料館。建物の歴史が現在の元になっていると感じる一日でした。森田さんの案内も学生の頃を思い出す空気感に癒され、ほっこりしました。 孝道さん

町全体から当時の雰囲気が感じられ、当時の様子が目に浮かぶようでした。(中略)着物を着せて頂きとても嬉しかったです。着物の後ろが着やすいように工夫されていて、車いすに乗っていても着ることができ、とても嬉しかったです。 依子さん

二川本陣資料館へは何度か来させて頂いていました。今回は説明をして頂き、見学できたので新たな気付きばかり。とても楽しめました。着物も羽織らせて頂き、さらに楽しめました。車いすもみなさんで担ぎ上げてください、ありがとうございました。感謝です。 綾子さん



事務局だより

入会のご案内 年会費 1,500円

「車いすを楽しむ会」では、随時会員を募集しています。会の趣旨にご賛同いただける方であれば、障がいの有無、程度等関係なく、どなたでも歓迎致します。お申し込み、お問い合わせは下記の連絡先へお願い致します。

各種連絡先

- 〒440-0826 愛知県豊橋市大井町134-1(有) ステップワールド 宮副
- TEL.FAX (0532) 39-3004 ステップワールド宮副まで ● E-mail・info@coolmice55.net

掲載中の文章・写真の無断転載を一切禁じます。規約上事務局は会長宅となっておりますが、事務処理の都合上連絡先をステップワールドとさせて頂いております。表記について「車いすを楽しむ会」では、皆様にお配りする印刷物では「車いす」と「障がい(者)」でひらがな表記を統一しております。ご理解ご了承いただきますようお願い致します。



希車倶楽部

KISHA-CLUB Vol.178

車いすを楽しむ会 会報紙 第78号
発行:2025.7月19日
発行責任者:牧野泰明

会長あいさつ 車いすを楽しむ会 会長 牧野泰明

皆さんこんにちは
2025年も早いもので半分が過ぎました。気候の変化で体調はお変わりないでしょうか?これから本格的に暑さが厳しくなってきますので、どうぞご自愛ください。そんな私は、暑さが苦手な夏本番を前にすでに夏バテ気味です。

先日、長久手市にあるジブリパークに出掛けてきました。パーク内周遊バスには乗らず、パーク内に点在するエリア間の移動は自走で移動し一日かけて見て回りました。ハウルの城内は車いすでは入る事は出来なかったですが、近くまでは行けたので世界感にどっぷりと浸る事ができました。その他にも行ける場所、行けない場所はありましたがとても楽しかったです。ジブリの大倉庫やもののけの里、魔女の谷などの有料エリア以外にも、無

料エリアも楽しむ事ができました。公園内のベンチある「ジブリの忘れ物」というジブリのオブジェを探して歩き、その作品名は何かなど話しながら楽しい散歩になりました。公園内に居る時には感じなかったのですが、帰路の車中では程良い疲労感がありました。そりゃそうですね。一日中屋外で動いていたのですから…

さて、振り返りにはなりますが、4月には春の遠足で豊橋市二川本陣資料館へ行ってきました。豊橋市に住んでいながら歴史を知らなかったの、資料館職員の森田先生から分かりやすいお話を聞いて、「へえ」「なるほど」「そうなんだ」と大変勉強になりました。

6月には総会も終わり、企画の部では近畿日本ツーリストの伴流高志氏を講師にお招きし、講演会を

行いました。伴流氏の探究心と行動力には驚き、感銘を受け、大変心が躍るお話でした。

こうした一つひとつの活動が、参加者同士のつながりを深め、会の新たな可能性を広げてくれたと実感しております。今年度も、より多くの「楽しい」を皆さんと共有できるよう努めてまいります。今後ともご協力、よろしくお願い致します。



車いすを楽しむ会イベントのお知らせ 楽しいバーベキュー!

毎年恒例の「楽しいBBQ」実施します。みなさんのご参加お待ちしております!

- 日時 2025年8月3日(日) 午前11:00現地集合
- 場所 新城市サイクリングターミナル風巻苑
- 会費 大人 2,500円 小・中学生 1,000円 未就学児童 無料 [当日徴収します]

★詳しくはお送りした葉書をご覧ください★



ご参加お待ちしております!



車いすを楽しむ会の Instagramを開設しました。

楽しむ会のイベント、交流会などの様子を投稿していきます。フォローをお願いします! アカウントは[KURUMAISU.ENJOY2024] [車いすを楽しむ会]で検索してください。



KURUMAISU.ENJOY2024

車いすを楽しむ会「楽しい定時総会」報告／伴流高志氏講演会レポート

さくらピア 2025.6月22日

6月22日(日)午後1時から『さくらピア』で令和6年度定時総会が開かれ、17人の会員が出席しました。(委任状14会員、合計31名で会員総数の過半数に達し、総会は公式に成立しました。)

<総会の部:牧野会長1年目の振り返りと2年目の目指すところ>

総会に先立ち牧野会長より『会員が楽しく触れ合い対話・交流できる会の運営に努めてきました。また、インスタグラムの開設・プール運動会への参加など新しい活動にもチャレンジすることができました。』と、ご挨拶をいただきました。

その後、昨年度活動実績・本年度活動計画(案)を青木会務、昨年度会計・本年度予算(案)を榎澤会計が報告し、原案通り承認されました。新体制の下で定例会改め交流会には会員以外の方も参加されて懇談できたこと・福祉教室を開いた牟呂小学校では後に「感謝する会」へ招かれたこと・ホームページを適宜更新し新たなリンク先につなげたことなどを会として共有できました。

<企画の部:伴流高志氏講演「旅をした

い、やればできる!」>

午後2時から会員以外の方も聴講できる講演会が催され、会員と合わせて総勢40人以上の聴衆で会場はほぼ満席となりました!

近畿日本ツーリストの社員として1997年より障がい者とそのご家族の旅行に28年間携わってきた伴流さんは、講演タイトル中の「やればできる」という言葉通り、障がい者の方が希望するパッケージツアーの企画に壁が立ちほだかるたびに、自らの努力で突破しツアーを実現されてきました。例えば、ホノルルマラソン参加ツアーの企画はまだ暗い早朝の時間のスタートだから危険という理由で、最初は社内で却下されたそうです。そこで伴流さんは実際に個人でホノルルマラソンに参加し、ヘルメットを着用した上で車いすにライトを装備すれば安全面はクリアできることを証明し、ツアーの企画の承認を得ました。「困難な状況・条件があれば、努力・工夫をして乗り越える」この信念と行動からは、正に車いすを楽しむ会が目指す『障が

いの有る・無しを越えて前向きに楽しく生きていく』姿勢を強烈に感じました! こうして他にもパルテノン神殿(ギリシャ)・マチュピチュ(ペルー)・ベニスの Gondola(イタリア)・象に乗る(タイ)・敦煌・四国八十八か所お遍路などで数々のバリアフリーパッケージツアーを実現できた実績を、アツい思いと共に語っていただきました。特にマチュピチュ旅行では、足元が階段など障がい者は歩けないところだらけなので、障がい者1人に添乗員スタッフが2人付いて、車いすと一緒に添乗員がずっと背負って移動したそうです。来ていたTシャツは脱いで絞ると汗が濡れ雑巾のようにポタポタ落ちるほどだったそうで、旅行が無事終了したときにはスタッフ一同で泣いて感激したと語ってくれました。

その一方で近畿日本ツーリストは、ともすると高齢を理由に旅を70歳の時点で諦めてしまう方々が多い状況に注目し、健康寿命の期間である75~80歳まで楽しんで充実した人生を楽しめる旅行を企画し広めていこうという「旅と人



生の出口戦略」を持っているそうです。伴流さんが企画・実行されるこのツアーにも、旅行会社としての営業戦略の一面もあるのだと感じました。(ちなみに行先は、ヨーロッパが人気だそうです)

その伴流さんは今、9月に東京で開催される世界陸上のバリアフリーツアーを企画・準備されています。新国立競技場のバリアフリー席は、荷物置き場になることも多いそうです。そんな現状に「やればできる!」というアツい気持ちで挑む伴流さんの姿とお話に、楽しむ会として今後の活動に臨む背中を押していただいた気がしました。(文責:青木良浩)

参加者は障がい者本人障がい者の家族や福祉や医療関係のお仕事をしている人も多く、掲載させていただいた方だけでなくみなさんユニバーサルツーリズムの試みに希望を持たれたものが多く今回の感想文は私たちの活動の中でも活かしていきたいと思います。

四国八十八ヶ所巡拝のお話を聞いて、そーいえば二十代の旅行は行けるから予定するのではなく、行きたいから行くだったなあと思い出しました。行くためにはどうしたらいいのかを考え、行動された伴流さんの行動力、感心しました。そして嬉しかったです。話を聞いている主人の顔を見てると楽しそうで、きつと旅をしたい!と思っているだろうと思いました。旅行に行きたくなるお話しを聞く機会をありがとうございました。(主人・電動車いす) たかたかさん

重度知的障害を伴う自閉症の子どもを育てています。どこへ行くにもすぐ興奮し叫んでしまう為いつも車(自家用車)での移動を余儀なくされ、親がへへとで旅を楽しみたいのに中々楽しめません。こうした取組がある事を今回初めて知ったので今後はこういった機会があることが心の支えにもなり、旅も子どもも親も楽しめるかもと希望がもてました。今回「行きたい所へ行く!」という言葉もものすごく心に響きました。参加できて本当によかったです! FUJIさん

ホノルルマラソンで車いす参加の「前例を作った!」にヤル気を感じました。バリアフリー化は日本が世界一とは驚きました。「海に入れた事が嬉しかった!」は新しい発見でした。 修次さん

困難な事が発生するとガゼン燃えて実現するという伴流さんの姿勢が宮副さんと重なり、楽しくお話を聞かせて頂きました。どんな状況の人でも、どんな所へも「行きたい!」と思ったらその思いが叶う素敵なおツアーという事が良くわかりました。 妙子さん

障がいがあっても自分らしく生きるという言葉がすごく印象に残りました。行ってみたい所があったりするけど難しいと感じる前にユニバーサルツアーに参加してみたいと思いました。 眞穂さん

たくさんの思いのこもった感想文をありがとうございました。

～地域の身近な『音で伝える』メディアとして～ 法人会員 エフエム豊橋様の取り組み

ん?楽しむ会がやしの実エフエムさんを取材しようと思っていたけれど…でもこれは、地域社会に楽しむ会の事をPRするチャンス!と考え、宮副副会長をはじめ4人ワンチームでパーソナリティとの対話を通じて楽しむ会をPRし、同時に希車倶楽部でやしの実エフエムさんを法人会員として「逆取材」することになりました。

午後3時半からの「生放送」に備え、15分前に4人がスタジオに集合。営業の方、そして進行してくれるパーソナリティ「ちゃわむー」こと山内誠子さんと名刺交換する中で、木内副会長と榎澤会計は初めて『これから生放送に出演する』ことを知りました。にわかには緊張感! ちゃわむーさんからまずは、車いすを楽しむ会の名前が意図するところ・設立からの歩みについて問われました。宮副副会長と私からこのように説明しました。

◆設立当初は「車いすの生活を考える会」。21世紀に入り、『考える段階から、積極的に外へ出て活動し、その姿を見てもらおう』と活動の方向を変えた ◆会員は障がい者と「障がいに関心の

ある健常者」。外に出て活動するとバリアフリーが整備されていなくて不自由な面もあるが、みんな自分事として考え工夫して時には助け合って、障がいのある無しを意識せず活動を続けていく。そんな私たちの姿を会の名前にある『楽しむ』という言葉に凝縮させた。

続いて木内副会長へ、入会したきっかけについて質問がありました。最初は家族と一緒に会の活動(春の遠足)に参加し、徐々に自分一人で参加するようになっていく中で、会員の方々が『他の人のために何かをする』姿を見て、自分も同じようにやっていきたいと思うて活動を続けていることを、丁寧に振り返ってくれました。

会計 榎澤さんの活動のきっかけは、楽しむ会BBQに法人会員である大木家さんの社員として参加したことで、以後は忘年会・春の遠足など他のイベントにも積極的に参加しています。そして何より、たくさんの練習を積んだ後ホノルルマラソンにチャレンジし、10kmを頑張つて見事に完走した思い出と達成感を、

臨場感たっぷりに話してくれました。

その後、日常生活の中でバリアフリーがもう少し進めば…という点について、話しました。
・スロープの勾配が車いすには大きすぎることが多い
・エレベータの「開延長」ボタンがもっと普及するといひ
・駐車場で、障がい者用スペースに健常者が駐車してしまうケースが多い

特に駐車場の障がい者用スペースの問題について、「なぜ特別に両幅の広い駐車スペースが必要なのか」を理解すれば誤った使われ方はされなくなる。その「なぜ」を想像できるようになる人が増えていくためにも、福祉教室を通じて障がいについて小中学生という若い世代に伝えていることを、話しました。木内副会長・会計 榎澤さんが一人の障がい者として、車いすを楽しむ会の活動の関わりを自分の言葉で実感を持って伝えることができました。

生放送が終わった後、私たち4人はこの機会を作って下さったやしの実エ

フエム営業の川岸さんと30分ほどお話ししました。そこでようやく「逆取材」開始!改めて、同社のバリアフリーへの取り組みについて、お伺いしました。

『ラジオは通勤・通学・家事・何かの作業中など日常生活の中で「ながら」でも聴けて、災害時には貴重な情報源ともなり、放送側が肉声で情報を伝えられるメディアです。パーソナリティと視聴者の距離感が近く、特定の話題を掘り下げて伝えやすい特徴があります。

特にコミュニティFMは、パーソナリティ・出演者が視聴者の知り合いであることも時々あって、地域社会とのつながりがより深いです。また、ラジオは音声だけで伝える「聴き手の想像力に負う」優しい伝え方のメディアです。例えば、自分や家族の障がいの有り様をあまり見せたくないけど伝えたい人にとっては、自らについて発信する手段としてあまり緊張せずに伝えることができます。今日ご紹介いただいた、車いすを楽しむ会が取り組まれている「心のバリアフ

リー」の活動についても、やしの実エフエムはコミュニティFMの地域社会におけるリスナーとの距離感の近さ・聴き手の想像力に負う優しい伝え方によって、肩ひじ張らずコツコツと発信することができると思います。』

終始にこやかに、とても分かりやすく説明して下さるその語り口は、正にラジオの優しさそのものだなあと感じました。やしの実エフエムを後にしてしばらくすると、車いすを楽しむ会の会員の方々から「生放送、聞きました!」「みんな、素敵でした」「聞き逃しちゃったー」など、いろいろな声をいただきました。生放送への出演という緊張感に始まった今回のPRと取材活動でしたが、改めて広い意味でのラジオの『楽しさ』を実感し、ホッコリとした気持ちになりました。

川岸さん、有難うございました。やしの実エフエムの皆様、これからも車いすを楽しむ会の法人会員として宜しくお願い申し上げます。

(文責:青木良浩)